

## ★ 海外技術研修青年2名、工技センターで技術研修

当センターでは7月21日から約半年の予定で海外の青年技術者の実地研修を行っています。これは鹿児島県から委託を受けた(財)鹿児島県国際交流協会の事業で、当センターでは2名を受け入れております。研修青年は、ウッタム・サッケさん(ネパール)とキリンダ・マヒンダさん(スリランカ)の2名で、すでに鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターで約2ヶ月の日本語研修を終え、現在サッケさんは木工デザインをマヒンダさんは陶器の研修をデザイン・工芸部で受けています。

以下に研修生のあいさつを掲載します。



はじめまして。私は、ネパールから来ましたウッタム・サッケ(UTTAM SHAKYA)です。ネパールの家内工業省のデザイン指導員です。木工デザインの勉強をするために鹿児島に来ました。

ネパールでは、メダルやジュエリー製品、あるいは、彫刻を施した木製小箱や窓のデザインをしています。また、若い人にデザインの指導もしています。

約2ヶ月間、アジア太平洋農村研修センターで日本語の勉強をしました。日本語の先生たちはとても親切で、夜遅くまで教えてくれました。途中、台風が来たときはビックリしました。ネパールには台風はありません。その時、停電になって、ろうそくで日本語の勉強をしました。楽しい思い出です。

工業技術センターでは、家具のデザインや接合部の形状を勉強し、三面図や二点透視図の製図技法を学びたいと思います。すでに、コンピュータを使ったデザインの技法、染色によるデザイン技法、おみこしの実測製図など学びました。そして、沢山の日本人と接して日本の色々なことを知りたいです。短い期間ですが、どうぞよろしくお願ひします。



はじめまして。スリランカから来ましたキリンダ・マヒンダ(KIRINDA G MAHINDA)です。私はJICAの紹介で日本の陶器デザインの勉強をする機会に恵まれ、工業技術センターのデザイン・工芸部に、デザインの研修に来ています。

鹿児島に来たのは今年の5月で、約半年が過ぎましたが、これまで鹿屋にあるアジア太平洋農村センターや大学で、7ヶ国から来ている友達と日本語の勉強や文化について2ヶ月間習い、そのあと、工業技術センターで実習に入っています。また、研修旅行では指宿の砂蒸しにも入り、はじめてのことで大変熱くすぐ出ましたが楽しい経験でした。私は、スリランカのキャラニヤと言うところにある国立のワラゴダ・セラミックセンターで、主に陶磁器のデザイン関係の仕事を行っています。セラミックセンターの製品は現在注文品の少量生産が主で、日本のようにデザインも豊富になく、これからの新しいデザインの製品作りとして、色々な加飾方法などを学びスリランカで役立てたいと思います。短い期間ですが、どうぞよろしくお願ひします。

## ★ 「第3回さつま工芸会展」－悠久の島・屋久島－

鹿児島ハイテク研究会の一つであるさつま工芸会（会員企業10社）が、9月18日から23日まで、鹿児島市内のデパートの画廊にて「素材でつなく仲間たち」と題し、展示会を開催しました。

3回目を迎えた今年は、世界自然遺産条約に指定され注目を浴びている「屋久島」をテーマに取り上げ、「屋久島」のもつイメージをテーマに開発した商品、約300点を展示しました。各会員企業で「祈り」「優しさ」「癒し、アロマテラピー」「AQUA, MOSS（水、苔）」「縄文」などといった屋久島から受けるイメージを作品に表現しました。

また、同時開催で「干支の丑展」も開催し、来年の干支である「丑」をモチーフにした商品だけ

を展示するというユニークな企画に、来場者の関心を集めていました。

恒例の行事ということで、毎年の開催を楽しみにしている来場者も多く、会員企業の方も新たな決意のもとに盛会のうちに幕を閉じました。



## ★ 展示会への参加

◎科学技術振興の方向やあり方を探りながら県試験研究機関の県民一般への認識・理解を増進するための科学技術シンポジウムでは、科学技術庁科学技術政策局長の落合俊夫氏の基調講演（演題：科学技術基本計画と地域への期待）のあと、「地域における科学振興－自立型技術基盤の確立に向けて」をテーマにパネル討論会があり、当センターの原 尚道所長もパネリストとして参加しました。科学振興について各試験研究機関で努力は認められるが、機関同士での議論が足りないことやコーディネーターの発掘の必要性について提言されました。

◎県試験研究成果発表会では、技術高度化分科会で機械技術部の岩本竜一研究員が平成5～6年度に取り組んだ地域人材不足対策技術開発事業の研究成果「焼酎原料自動供給システム」について発表しました。

◎県試験研究機関成果展示会では、竹平板製造技術、草木染技術のパネルや成果品を展示（写真）した他、関連する展示として大口酒造協業組合と共同で実用化した酵母を使った焼酎の試飲や、ノイズ対策技術で指導を行った電子機器（株式会社

エルム）と、デザインを指導した照明器具（有限会社木原製作所、前迫石材株式会社、山王産業株式会社）の展示も行いました。インターネット体験コーナーでは当センターのホームページを紹介しました。

◎県政パネル展では、焼酎原料の自動供給システム、竹平板製造技術、新種酵母による焼酎等の展示を行いました。



| 展示会等           | 期間       | 会場      |
|----------------|----------|---------|
| 科学技術シンポジウム     | 10/7     | 城山観光ホテル |
| 県試験研究機関研究成果発表会 | 10/7     | 城山観光ホテル |
| 県試験研究機関研究成果展示会 | 10/8～9   | いづろドーム  |
| 県政パネル展         | 10/25～27 | 県庁新庁舎   |

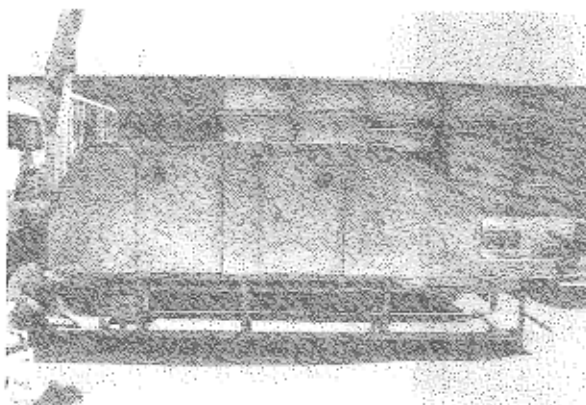
## ★ 焼酎原料の自動供給システムの実用化(技術移転事例)

中小企業庁の地域技術活性化事業の地域人材不足対策技術開発事業で平成5～6年度に産学官共同研究で試作開発した「焼酎原料の自動供給システムの開発」の一部が実用機として完成し、納入されました。これは、当センターと株式会社フジヤマが担当した連続蒸煮システムです。

発注したのは曾於郡松山町の有限会社太南農場(中山信一社長)の加工場で、主に地元のサツマイモを蒸して、焼酎等の原料として付加価値を上げ販売するそうです。

この蒸煮装置は、上下から蒸気を供給することが可能で、かつ温度センサーにより細かな温度制御が可能な構造になっています。

試作機と実用機を比較しますと、蒸煮長さは、5mから20mと4倍、処理能力で約10倍にスケールアップされています。



試作機の概観



実用機の概観

## ★ 黒糖焼酎製造技術講習会の開催

黒糖焼酎製造技術講習会を9月26日に名瀬市の県大島支庁会議室で開催し、奄美地区のほとんどの黒糖焼酎製造工場から38名の製造現場技術者の参加がありました。

この講習会の内容は、黒糖原料の処理方法から製麹、モロミ管理などの製造管理の基礎に関する講義と、アルコール分、酸度など分析技術の実習を行いました。

その他、講習会では県商工労働部中小企業課から「中小企業診断報告」、大島税務署から「製造期前の指示伝達事項」について説明が行われました。

当センターが奄美地区でこのような実習を含めた講習会を行うのは初めてであり、参加者の大部

分は、分析技術の習得を目指して熱心に実習に取り組んでいました。今後これらの分析技術を製造現場に活かすことで、製品の安定や高品質化につながるの、来年度以降も続けて欲しいという要望がありました。

